

くじらぐもさんへ

たけがわ花ほ

くじらぐもさんのせてくれて
どうもありがとうございました。
おれいにつぎにのるときはきょ大
なケークをもてします。だてくじらぐ
もさんがおなかいはいたづられるからで
す。こんどはいっしょにどこにいきましょ
う。セドナか日本はどうですか？
本をもそくるのでったときにくじ
らぐもさんによみぎかせしてあげま
す。たのしみにしています。

やさしい人になりたい

二年 おぎの ひまり

わたしは、「さるかにはなし」

を読みました。図書コーナーでこ

の本を見たとき、さるがつかまっ

ていて、なんでかな、おもしろそ

うだなと思っただけで読んでみるこ

とにしました。

この本に出てくるさるは、とて

もおなかかすいていて、頭がいい

けどいいじわるです。うまく言っ

かきのたねとかにかもっているお

にぎりをかえてもらったり、かに

かそだてたかきのみを一人じめし

たりします。そしてはちやくりや

と	っ	や	な		と	っ	か		ら	と	よ	っ	人		っ	う
を	て	さ	は	は	聞	あ	に	あ	か	言	か	じ	あ	つ	す	か
さ	あ	し	ん	ん	き	た	に	し	か	っ	に	め	た	け	か	に
れ	げ	く	た	た	ま	し	か	も	き	た	な	し	は	ろ	の	の
た	た	な	と	と	す	も	き	食	と	と	ん	た	、	お	か	あ
の	と	っ	ろ	ろ	。	食	と	べ	っ	ろ	か	と	き	話	あ	り
に	ろ	て	は	は		べ	っ	て		を	に	き	、	し	に	、
、	で	み	、	、		い		い		読	た			で		さ
ゆ	す	ん	さ	う		い		い		ん	た			す		る
る	。	な	い	れ		い		い		で	し			。		を
し	ひ	に	後	し		い		い		と	だ					や
て	ど	か	に	い		い		い		も	っ					
な	い	き	さ	気		い		い		は	た					
か	こ	を	る	も		い		い			ら					
よ		と	が	ち		い		い								

くしてあげたかにかすてきだと思
いしました。あたしもいいわるさを
れたことがありましたか、自分が
やさしくすると、いいわるだつた
子と友だちになれた、ということ
がありました。そのときとてもう
れしかった気もちを思い出しまし
た。

この本を読んで、いいわるする
とはちが当たる、ということを学
び、わたしはやさしい人になりた
いと思いました。

かあちゃん取扱説明書

四年 松永 裕依

話の終わりは、大どんでん返してした。わたしは、この本は、どうしたらお母さんにおこられなくてすむか、どうしたら自分のしたいことだけできるかを、ただ説明するだけだと思っ
ていました。だけど、最後は全然ちがうことが起こりました。

主人公のって、ちゃんとは、機げんが良くなっ

たり、悪くなったりするお母さんを見ていて、どうしたらいつもやさしくて、自分の言うことを聞いてくれるかを考えて、お母さんの扱い方をまとめる事を思いつきます。それを、
「かあちゃん取扱説明書」と名前をつけて、ノートに書いていきます。

お母さんにしてほしい事が、全部で十一個書いてあって、その中で、わたしが一番試してみたいと思っ
たのは、「こづかいがもつ」ともらえる方法」だっ
たけれど、本には書いて

いなかっただので残念でした。

次に、きょう味があつたのは、「早くしなさいと言われないう方法」です。何か言われそうな気配がする時は、なんでもやっただけにするか、もうすぐやるという態度を見せることで、この方法は無理だと思えます。

本当に試してみたのは、「好きなご飯を作ってもらう方法」です。き本へんと、おう用へんがあつて、わたしはおう用へんを試して

みました。

「お母さんの作る世界で一番おいしいカレーが食べたい」。

と言つてほめたら、その日の晩ご飯はカレーが出てきました。どうも、てっちゃんのお父さんの言う通り、お母さんはほめられる事に弱いみたいです。たれでも、ほめられたいいい気分になるから、それはいい方法だと思います。

本の最後に書かれていた方法は、「失敗し

た時におこられない方法でした。失敗した時は、涙をうかべる方法でした。でも、ってっちゃん、本当は泣きながらあやまりました。きつとおこられると思っっていたのに、お母さんはなぜかやさしくて、ゆるしてくれました。それがきつかけで、お母さんのことを考えるようになりました。てっちゃんは自分の事はかり考えて、取扱説明書を書いていたけれど、お母さんの気持ちはどうなのだろうと考え出しました。てっちゃんの気持ちは何となく分

かるような気がします。わたしのお母さんは、いつもわたしのことを考えてくれています。わたしもお母さんにやさしくしたいと思います。した。

話の最後は、お母さんが焼肉を用意して、韓国旅行に行く計画を発表する場面です。家族で、おいしい焼肉を食べながら、お母さんにはてっちゃんとお父さんをほめます。二人は、だめだとは言えませんでした。お母さんは、てっちゃんとお父さんの取り扱い方を完

べきにマスターしていました。さすが、お母
さんだと思いました。わたしのお母さんは、
「あなたのことは何でも分かる。うそなんか
ついたら、お見通し」。と、いつも言っ
ています。どこのお母さんも
同じなのだと思います。本の最後の一行は、
「か、かあちゃん、おそろべし」。と書い
てありました。たしかに、そうだと思
います。お母さんって、とにかくすごい。
この本は、本屋さんに行った時に、お母さ

んが読むのをすすめてくれました。わたしは
あんまり気が進まなかったけれど、とりあ
えず読んでみることにしました。とてもおもしろ
くて、すらすら読めました。でも、最後ま
で読んでみて、お母さんはわたしにお母さん
のすごさを伝えたかったのかと思いました。
お母さん、おそろべし。

善と悪をはかりにのせて

六年 西藤 安菜

「恐ろしい……私は『ジークル博士とハイ
ド氏』を読み終えて身ぶるいをした。アルセ
ーヌ・ルパンやシャーロックホームズなどの
探偵・冒険小説などのハラハラドキドキとは
ちがう、今まで読んできたいくつもの本の中
で一度も感じたことのない、とても言葉では
表せない恐ろしさだ。」

この本は、人の善と悪。また、人の性格に
ついてをジークル博士とハイド氏という二人
の人物を通して読者に教えてくれる。ジーク
ル博士とはこの物語の主人公である。正義感
が強く、慈善家で、人々から信頼されている
科学者だ。ハイド氏もまた、この物語の主人
公である。彼は、ジークル博士の魂の下等な
要素が肉体化された、悪のみからできている
人物だ。ジークル博士は、人の「善と悪をそ
れぞれ別の肉体に住まわせることができれば、

人生はあらゆる悩みから解放されるのではない。
いか」という考えを持っている。

私はこの考えに賛成するが、同時に反対する。
賛成する理由はジークル博士と同じで、
良いこと、自分ではなく人のためのことをし
ようとする、自分の中の悪が必ず利益のこ
とを考えて邪魔するからだ。もし、善と悪が
それぞれ別の肉体に住めば、このバ配はいら
ない。善は悪に邪魔されず、悪は善に邪魔され
ない。反対する理由は、もし悪のみの人間が

約二倍にも増えてしまつと、この世の中は大
変なことになつてしまふからだ。善と悪が混
合した状態で、善が悪の行動を邪魔して、い
てもこんなに犯罪が起こっているのに、悪だけ
でできている人、または鬼ができてしまふと、
とんでもないことになつてしまふのではない
だろうか。

この物語の主な出来事は、ジークル博士が
暗い欲望にとられ、薬を混合し、自分の
中でも「悪いやつ」のハイド氏に変身してし

まうという出来事だ。

この本を読み終えて私は、人間はみんな善
と悪が重なりあい、対立することになり立っ
ているということが分かった。たしかに、だ
れでも良い性格もあれば、悪い性格もある。
例えば私は人を笑わせて、楽しい気持ちにさ
せたり、多くの人と仲良くできたり、優しい
性格だ。その一方で、怒ると意地が悪くなっ
たり、いやなものは先延ばしにしてみました
り、あまり良くない一面もある。この二つの

「私」がはかりにのせられたみたいにつり合
うことで今の私がある。と私は想像している。
いやなことや悲しいことが起こった時、した
かったことができなかった時などは、悪い方
の私のおもりが重くなり、いやな一面が出て
きやすくなってしまう。逆に、良いことや楽
しいことが起こったり、美味しいごはんや好
きなものを食べられたりすると、良い方の私
のおもりが重くなり、良い方の性格が出やす
くなる。ハイド氏も、いやなことがあったり、

気に入らないことがあったりすると、暴れや
すくなり、殺人さえしてしまう。それを思う
と、自分の気持ちができるだけコントロール
できるように頑張ろう、と改めて思った。
この本を読んで気が付いたもう一つのこと
は、友情が生きていく上でとても大切だとい
うことだ。友達は、秘密を打ち明けたり、相
談にのってもらったり、人生の中で欠かせな
い存在である。ジーキル博士も、ハイド氏に
乗とられそうになり、悩んでいたときに助

けてくれたのは友達だった。友達のおかげで、
博士は人生をふり返ることができた。また、
ふり返ることと世の中の良さに気付き、でき
るだけ自分の悪を静め、善に人生を注ぎ、ハ
イド氏ではなくジーキル博士として生きてい
くことを決まできたのだ。結果、しばらく楽
しい時間が過ごせた。私も、悩み事があった
り、いやなことがあったりすると、もちろん
親にも相談するが、友達といるとその気持ち
を分か、てくれるだけでなく、一緒に遊んで

楽しい時間を過ごすことで、少しの間でも、
心配や悩みを忘れることができる。

このように、恐ろしいながらも、この本は
私に沢山のことを教えてくれた。友達の大切
さ、人間はみんな違うということ、そして、
人は善と悪が重なり、対立すること下成り立
っているということだ。これから、善と悪
のはかりを気にして、友達を大切にしていこ
う、そう私は決めた。